宮坂氏のコメントに答える

山 本 幹 夫*   久 常 節 子**

The answer to Dr. MIYASAKA'S Comment

Mikio YAMAMOTO* and Setsuko HISATSUNE**

まず最初に私達の論文に対して、コメントをお寄せいただき、この学会誌に新風を吹き入れてくださった宮坂先生にお礼を申し上げる。掲載論文に対するコメントやそれへの答えなどが掲載されて、学術的意見の交流をはかることは、学術雑誌としても大いに歓迎すべきことであると考え、又これを積極的に実施している国際誌などの例もある。

さて、宣言の第IV条「人々は個人として又集団として、自分達のためのヘルスケアの企画と実施に参加する権利と義務をもつ」ということに関する御指摘は重要であると考え、

我国の従来地域組織活動の未熟性とも考えあわせ、自分達のヘルスケアの企画と実施に参加する権利と義務を十分に行使するに足る住民の力量が一般に不足しているので、私達の論述ではその部分についての健康活動について述べた次第である。

このように力量形成にむけての教育的努力が進められねばならないし、その裏づけとしての活動参加の権利や義務を明確にしておく必要性については御指摘の通りである。御指摘を感謝申し上げる。

ただその参加の方法として特に「集団として」の参加については、参加の仕組みを作ることや専門家組織の参画が必要であることがわかるが、始めに御指摘の自発的参加のための意欲についての教育的側面との結びつきはどのように考えればいだろうか。仕組がつくられ、専門家の参画がありながら、各立場の主張のみで形式的運営に終って活動が形がい化した協議会や委員会などをみるにつけ組織活動については更に多くの問題のほりきぎを必要とするのではないか。このような地区組織に関連した問題について私達も研究中で、その一部について近く本誌に投稿するので御批判をお願いしたい。

(受稿 57.1.12)

---

* 帝京大学医学部公衆衛生学教室

** 国立公衆衛生院衛生看護学部

* *Department of Public Health, Teikyo University School of Medicine*

** *Department of Nursing National Institute of Public Health*